

麴町區  
教會育  
夏の幼稚園番町の部

目的 炎暑の街頭に遊ぶ幼兒の心身にうくる危害を避け、備へられたる環境の中に、專任の養護者の許に身心共によき發達を遂げさせる事を目的とする。

期日

七月十一日より八月十三日迄三週間 午前八時より午後三時まで

場所

番町幼稚園を主とし上六公園、清水谷公園、日比谷公園、郊外（多摩川原）等樹蔭を追て移動する。

幼兒數及年齢 五歳から七歳までの幼兒。

定員五十名であつたが各町町の推選と家事の事情上止むを得ざる者とを身體検査の上許可し七十一名とした。

係員 園長 一名 園醫 一名 保姆 七名 衛生婦一名 小使 二名

經費 教會會支出、外に幼兒六十八名分の會費、一名貳圓宛（會費、免除三名あり）

組分け 住所別、四組（名稱は色）

募集方法 近接の下六、下二、紀尾井町六、土手三番、三番町、中六、麴町八丁目の各町會に開催の主旨を述べて掲示其他の方法により各家庭に傳達した。

大體は昨年の第一回の催と略同様である。但し昨年は一園で区内各方面からの幼児を收容した爲年少の幼児にとつては人数が多すぎたが本年は富士見小學校附屬幼稚園と當園と二ヶ所に設置されたので幼児数が二分された事、期間が少し短くなつた事、家庭の事情に依り會費を免除した事、年齢を五歳より七歳とした事（昨年は満三歳より満七歳まで）此の四點が異なる處であつた。

七十一名の幼児を家庭生活のみの者と幼稚園生活をしたものと分けると

境 遇 別	幼 稚 園 児	家 庭 生 活 児	計	昭 和 六 年
	21	50		

右表の通り半数以上は幼稚園生活をしない者である。試に昨年の表をあぐれば

境 遇 別	幼 稚 園 児	學 童	家 庭 生 活 児	計	昭 和 五 年
	43	33	74		

昨年は年齢を満七歳までとした爲小學兒童をも含たのであるが、幼稚園なり小學校なりの團體生活をしない者が約半數である。

保育内容は健康と衛生に留意して出來得る限り戶外で十分に日光浴と空氣浴を、走り廻り、攀り、水遊び等に依て運動する事をつとめ天候によつては室内で映畫、お話、人形芝居、遊戲、製作等をし、午前十時と午後二時半の間食、食後約一時間の午睡とは缺かさぬ日課であつた。

「自分の事を自分でする」「手を洗ってから食事」、これ等の約束はわづか三週の間でも體驗的習慣になつた様である。

樹蔭追て園外へ。

市内の各公園と郊外の多摩川行きは附添ふ係員にとつては非常な體力と心力を要するが、炎暑の折柄にも係らず幼兒にとつては小踊りしての喜び、飛びまはる足どりに過勞の様子は見えず。のみならず外へ出るとお辨當を残す者が殆ど無い位で、午睡も常よりは十分に規定の時間をこえて起す程であつた。

園醫は毎週の健康診断と入園前と終りの身體検査 發熱其他衛生方面の指導をされ、専任衛生婦は應急手當、間食、水溫計、午睡、等を據當されたが、夏期特有の惡疫に係る者も又負傷者も無く、無事に三週間を終へる事が出來た。



今日でもうおしまひ。

「あらあ、今日水あそびしないの？」

つまんないなア」

からの池をながめてゐる、

「寫眞！ 早くいらつしやい。スベリ

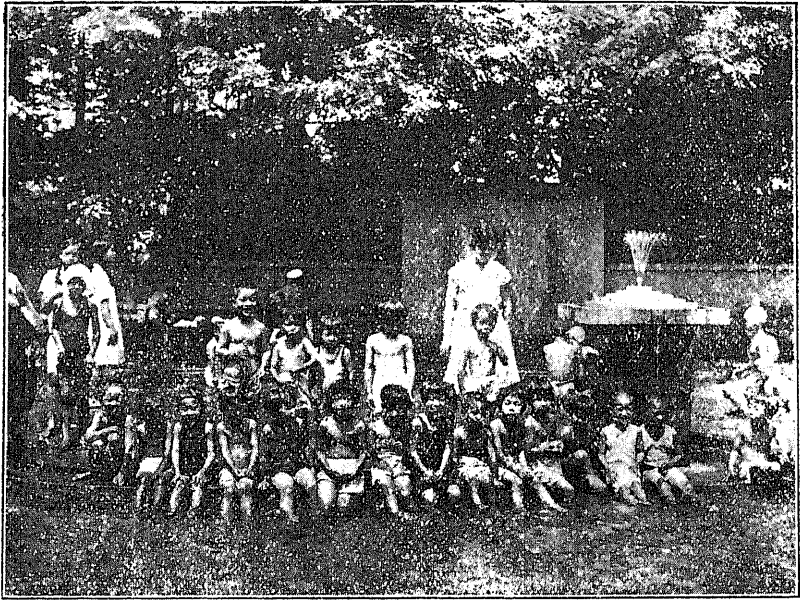
臺へ、梯子の方と」

二組に分れる。「お話ししないで向を見

て」といふT先生の言葉の終らぬうち、

皆のニコ／＼顔はレンズには入つてし

まつた。



アカシヤの枝がすつかり苧りこまれて、明る陽がさす、公園の先生のお計らひで幼児達だけ入れて頂く。着換とタオル履物を一定の場所に置き、まづシャワーで頭を湿す、あとは雪の様な水しぶきと、ちやぶく〜いふ音と子等のさめき。一定の量をたゞえ湧いては流出れる水の美しさ。

十分で水から出る合圖の笛、噴水のとこ、Y先生のとこ、そこで腰かけて、一寸こつちを向いて下さる。

アカシヤの花が音なくこぼれる眞衰。

(七月三十日 日比谷公園)



A 「いいなア、海だよ」

B 「僕、およげらア」いふより早く底に手をついて足をポチャ／＼水煙り。

A 「うわーッ、」

保姆 「Aちゃん先生が手をつかまへてあげるから、さ、いらつしやろ」

したいし、怖いし、突き出してもらはないとし得ない子、都會兒はかういふのがよくある。

子供達の目に海とうつる此處は多摩川、深い所がやつと大人の膝まで、流でなく砂地の澄んだ湧水、水温24度。

(八月十日)